

インターネット利用の英語教育(2)

加 藤 直 良*

English Education Through the Internet (2)

Naoyoshi Kato

In the 1950s the LL(Language Learning) laboratory was introduced into English Education for the first time in Japan. At that time the features of LL lab. were insufficient as one could merely use a tape recorder. After many years a computer system was added. Due to the recent additions of computer assisted language learning, there has been a noticeable improvement in the LL lab.

This paper investigates how to utilize the Internet for English Education. The best thing about using the Internet is that learners can choose the Internet sites corresponding to their ability, by themselves.

序論

コンピュータが我々の生活と密接に関係し、その利用方法が各方面で論議されるようになってかなりの時間が経過した。教育現場においてもコンピュータが出席管理、成績、文書作成など様々な分野で活躍してきた。英語教育においてはLL(Language Laboratory)が各大学で導入され、さらに様々なメディアが用いられてきた。そして近年CALL(Computer Assisted Language Learning)が盛んに論じられるようになった。コンピュータを用いた言語教育は様々な語学学習の可能性を広げたように思える。その主役が昨今の一大ブームを築いたインターネットである。教育特に英語教育におけるその利用価値は計り知れないものがある。従来のLLが持つその機能の位置づけは明確であった。個別のブースに学習者が入り、教授側が一方的に材料を提供し反復練習や変換練習を行う。テープを聞きながら教授側から時々コメントをもらい学習を進めたのである。提供されるメディアがテープである場合、学習者は皆一斉に同じレベルの教材で学習することになる。そこには学習者個々の能力の相違などは完全に無視されている。インターネットを利用した英語教育で特に大きな特徴の一つがこの点にある。CALLラボでは従来のLL授業のように一斉授業が可能であることは勿論ではあるが、目標とするところはこの点ではない。CALLラボは学習者が個別に学習できることを大前提としている。学習者自身が自ら興味の持てる材料を利用した語学学習の風景が浮かびあがる。興味の持てる材料で個々の能力に応じた語学学習ができる点が最大の魅力ある学習プログラムである。教授側は個々の学生に的確なアドバイスを提供することが可能である。

本稿ではインターネットを利用した英語教育を実際に実施しそこに発生する様々な問題点を明確にし、今後のインターネット利用の英語教育に有効に利用することを目標とするものである。

* 教養部

1. 1年間の語学プログラム

今年度実施中のインターネットを利用した語学教育の年間計画は下記の通りである。詳細に授業を追ってみるとインターネットを利用する際の様々な問題点が見えてくる。

[授業計画]

回 数	テ ー マ	内 容・ 方 法 等
第1回	コンピューターの基本的な操作と win95の説明	コンピュータの操作と win95 の機能説明並びに各ソフトの紹介と簡単な使用方法を説明。1年間の授業方法等説明。
第2回～第3回	インターネットの活用	インターネット利用方法を解説し実際に色々なサイトに接続。ただし、英文のサイトのみという制限を付加する。
第4回～第5回	Reading (1)	最初に CNN に接続し、世界情勢を把握する。その後、今週のテーマに取り組む。2週にわたり Reading の分野にアクセスし、読解力養成につとめる。今週はこれから指定したサイトにアクセスし作業を進める。学生はレポートを作成し提出。
第6回	Reading(2)	2週にわたる学習の Reading セクションについて質疑と討論を学生の発表をベースに実施。問題点など多々討議する。
第7回～第8回	Reading(3)	CNN に接続。先週の反省点を踏まえて、再度 Reading の分野にアクセスする。指定したサイトにアクセス。学生はレポート提出。
第9回	Reading(4)	CNN に接続。先週アクセスした Reading の分野に関する討論と課題。
第10回～第11回	Reading(5) & 検索方法	CNN に接続。今週から学生達が今一番興味のある分野に自由にアクセスする。検索方法にかなりの時間を要する。学生は教材が各自異なるものを自由に選択し学習する。レポート作成提出。
第12回	Reading & 討議	CNN に接続。各自アクセスしたサイトの紹介と問題提起及び解決策の討議。レポート未提出の学生はレポート作成提出。
第13回	予備日	

第 14 回～第 15 回	Writing(1) & e-mail	CNN に接続。今週から Writing の分野に入る。e-mail 作成の準備。 e-mail の基本的な活用法と英文の作り方を指導。また英語の構文なども学習する。実際に英文を作成する。
第 16 回 & 第 17 回	Writing(2) & e-mail	CNN に接続。学生は各自英文を作成する。作文指導と添削。作成したものを提出。
第 18 回	Writing(3) & e-mail	作成した英文を e-mail ソフト Eudora で実際に書き込み送信まで模擬練習する。問題点など討議する。
第 19 回～第 20 回	TOEFL(1)	今週から TOEFL の分野で学習する。TOEFL のサイトにアクセスし、練習問題を実施する。
第 21 回～第 22 回	TOEFL(2)	TOEFL のサイトにアクセスする。検索機能を利用し、辞書のサイトにアクセスし理解できない単語、イディオム等を調べる。
第 23 回	TOEFL(3)	TOEFL のまとめとして、試験実施。
第 24 回～第 25 回	英検	英検のサイトにアクセスする。 練習問題で実力養成。
第 26 回	総まとめ	1 年間のまとめ。

(1) 第 1 回

コンピュータの基本的な操作と win95 の説明

win95 の基本的操作法を初心者対象に実施。

問題点：日頃からコンピュータに親しんでいる学生とそうでない学生との操作上の能力差が大きく苦勞する。1 時間の授業で全員ほぼ基本的な操作法は理解できた。

(2) 第 2 回～第 3 回

インターネットの活用

インターネットの利用法を解説し、実際に色々なサイトにアクセスする。(英文サイトにのみ接続するという制限を課す)

問題点：英語の説明に四苦八苦する。

改良点：授業の始めにインターネットに頻繁に出現する英語を基本語も含め解説する必要がある。
また個別にインターネット独特の英語をヒントとなる程度に解説する。

(3) 第 4 回～第 5 回

Reading (1)

ネット上にある reading 教材にアクセスする。今回は指定したサイトにアクセスする。

問題点：指導者側からの一方的なサイト指示は本来のインターネット使用の利点に逆行するもの
と考える。

改良点：学生が個々の興味のあるサイトにアクセスし自然に英語に接することができるよ
うに指導する。

(4) 第6回

先週の反省

Reading サイトについての反省と討議。学習したことを確認し、問題点など話し合
う。

問題点：インターネットにまだ順応できない学生また、コンピュータの操作で戸惑う学生が少数
いる。

(5) 第7回～第8回

Reading

CNN のサイトに接続し、英文を読むと同時に最新の世界情勢を把握する。

今回も指定したサイトに接続し、多数ある英文購読材料の中から自分の興味のある作
品を選択し、読解力養成に努める。各自選択した材料をもとにワープロソフトを起動
させ和訳し、提出する。

問題点：モニターに二つの異なる画面を同時に起動させ作業することに最初戸惑うが、す
ぐにマスターする。

改良点：コンピュータの基本的操作を徹底的に再指導する。

(6) 第9回

Reading (4)

CNN に接続。Reading の分野に関する反省と討議。範囲指定はあったにせよ自由に
材料を選択できた点は好評であった。

(7) 第10回～第11回

Reading と検索方法

検索ページを活用し、各自一番興味のあるサイトへアクセスし英文を読む。

特徴ある検索ページがネット上には沢山あるので充分活用できるよう練習する。

検索ページを利用することにより確実にインターネットの利用範囲が拡大されたこ
とは事実である。

問題点：絞込検索法に慣れた確にめざす項目のサイトに短時間で到達することを習得する
必要がある。

(8) 第12回

Reading と討議

アクセスしたサイトの紹介と問題提起。

(9) 第14回～第18回

Writing と e-mail の練習をする。

主として英文レターの書き方を練習する。メールソフト Eudora で実際に英文を作成し送信するまで練習する。学生は個々の ID を獲得していないため実際に送信することは不可能。英文は提出させ添削指導する。

問題点：ID を獲得していないため国内は勿論外国へ送信できないため外国と交信するというインターネットの確信部分が欠如してしまうことになる。

(10) 第 19 回～第 23 回

TOEFL

TOEFL のサイトにアクセスし実際の練習問題をネット上で体験する。不明な語句が存在した場合辞書のサイトに接続し意味を調べる。

(11) 第 24 回～第 25 回

英語検定

英語検定のサイトにアクセスし、自己採点する。疑問な点は質問させそれに答える。英検の問題に関する諸注意を行い更に練習を積む。

問題点：マークシート形式の問題はすぐ解答がコンピュータの操作で容易に得ることができするため考える時間がもう少しほしいところである。

2. 理想的なインターネット利用の英語教育

実際にインターネットを利用した授業を既述してみたが課題は山積みである。この章では実際の授業で得た様々な状況を踏まえいかなる授業がインターネットでは可能か、またそうあらねばならないか分野別に論を展開してみる。

我が国に LL が最初に導入された 1950 年代では個々がブースを擁しテープレコーダ中心の授業形態であった。それが徐々に進歩し VTR、レーザーディスク、OHP 等が取り入れられ、さらにコンピュータの導入によりマルチメディア的な LL へと様変わりした。また多種多様なソフトの充実こそなお一層の進歩に拍車をかけた結果となったことは言うまでもない。

(2.1) Reading

Reading の分野でインターネットを利用することはかなり自然な形で違和感なく学習することが出来る。一般的によく知られているサイトは次の物がある。


English as a Second Language Home Page. <http://www.lang.uiuc.edu/r-li5/esl/>

Impact online. <http://www.ed.uiuc.edu/impact/>

EXCHANGE. <http://deil.lang.uiuc.edu/exchange/>

インターネットを利用するその神髄は一つのテーマから派生して次々と関連したサイトへリンクされているところにある。リンクされているサイトへサーフィンすることにより新しい知識が増加するばかりか、その間英文を必死に読む必要にかられ

Reading の練習になることは言うまでもない。とりわけ既述した Impact Online は現実の問題と密接に結びついた関連記事を読むことが出来る。



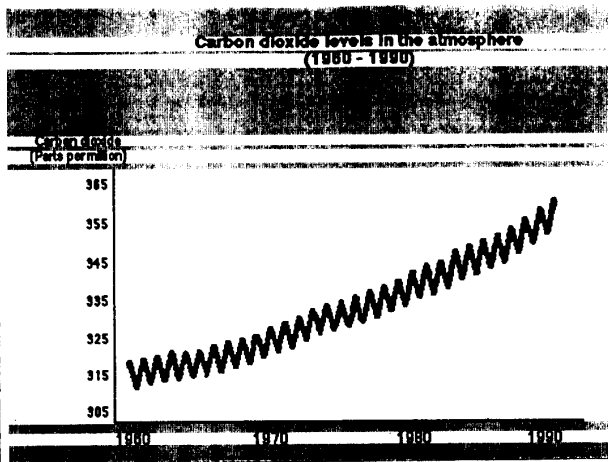
Welcome to **Impact! Online**, a hypertextual news reader for intermediate and advanced learners of English as a second or foreign language. This information area is a joint project of the University of Illinois College of Education and Passport Educational Publishing, an Illinois not-for-profit corporation.

We have a mailing-list as a forum for our readers to communicate with each other and with the authors. Click [here](#) to find out how to join our mailing-list.

PLEASE GIVE US YOUR FEEDBACK! Click [here](#) to go to our brief survey form.

Table of Contents

- Current Events
 - Employers taken 22 million children on vacation across the Arctic Ocean (March, 1995)
 - Global warming returns after two-year hiatus (February, 1995)
 - Alcohol-related traffic deaths down 31% in 12 years (December, 1994)
 - Cairo conference addresses global population (September, 1994)
 - Singapore case brings domestic violence center closer (October, 1994)
 - U.S. provides assistance to South Africa (October, 1994)
 - Airline safety a concern for travelers (November, 1994)
 - Minnesota school warns students and teachers to stay fragrance-free (November, 1994)
 - Shoddy pipeline blamed for Russian oil spill: Arctic lands and rivers fouled (November, 1994)
- Health Watch
 - New research proves caffeine is addictive (October, 1994)
 - Obesity a growing problem in the U.S. (October, 1994)
- Miscellaneous
 - Rock band wants to cut out from dissection (March, 1995)
 - World News in Brief (October, 1994)
 - World News in Brief (November, 1994)
 - Sports and Entertainment (October, 1994)
 - Sports and Entertainment (November, 1994)



Carbon dioxide levels in the atmosphere (1960-1990)

The graph shows a steady increase in CO2 levels from approximately 315 ppm in 1960 to over 355 ppm in 1990, with a seasonal oscillation. The Y-axis is labeled 'Carbon Dioxide (Parts per million)' and ranges from 305 to 365. The X-axis shows years from 1960 to 1990.

More Readings about global climate change

- Global Warming Update (From NOAA)
- Volcanoes and Global Climate Change (From NASA Facts)
- Primer of global climate change
- 40 Tips to Go Green (From Singapore)

PLEASE GIVE US YOUR FEEDBACK! Click [here](#) to go to our brief survey form.

[Go to glossary](#)

(1)

(2)

(1)の図表は Impact Online の目次である。Current Events のなかの2番目にアクセスしてみる。(Global Warming returns after two-year hiatus)

(2)のサイトで More Readings about global change (Global Warming Update from NOAA)にアクセスすると関連記事として海洋気象局のページへリンクされている。

以上のようにインターネットは自分の興味でリンク先へジャンプすることにより英語を道具として使い知識を豊かにしてくれる。勿論その言語が英語であることは言うまでもない。

(2.2) Writing

インターネットを利用して Writing を学習するプログラムも多数存在する。本学の様な理数系大学の学生にとってはうってつけのサイトがテクニカル Writing の練習可能なサイトである。基本的な技術用語・表現をマスターし特殊な英文指導をしてくれるサイトである。また昔から書く力を養成するために定番だった方法がネイティブとの英語文通である。いわゆる電子パル (e-pal)である。ネット上では相手を捜すことは以外に簡単で容易に見つけだすことが出来る。気軽にインターネットを利用して英語文通が可能なため是非学習者は体験してもらいたいサイトである。勿論そこには越えてはならないエチケットがあることはメールのもっとも基本とするところである。

Internet Technical Writing Course.

<http://www.austin.cc.tx.us/mcmurray/achtml/acctoc.html>

Kids'Club: <http://mack.rt66.com/kidclub/memb.htm>

Exchange: <http://deil.lang.uiuc.edu/exchange/>

Writing 実習を英語教育に取り入れる場合、やはりもっとも効果的な方法が E-mail の活用であろう。メーリングリストを利用した方法がもっとも一般的である。英語を母語としている学生のクラスとメールの交換をする場合が最良の方法である。英語を母語とする学生との交流は相手の文化の吸収にも役立つし、また日本文化の紹介を英語で行うことにもつながるわけで、かなりの英語力が要求される。しかし初期段階ではもっと簡単な情報の交換も可能で、メールを交換するその喜びは想像を絶する物がある。

Intercultural E-mail Classroom Connections:

<http://www.stolaf.edu/network/iecc/>

(2.3) Speaking & Hearing

Speaking 並びに Hearing に利用できる音声教材のサイトもネット上には多数存在する。音声が付いた英語会話教材、大統領の演説サイト、昔から定評のあるキング牧師の演説集、インタビュー英語など多種多様である。こう言ったサイトを利用して耳と口を訓練する事が出来る。

本格的にネイティブとリアルタイムに意見交換を希望する場合、アメリカ Cornell 大学が開発したソフト *CU-SeeMe* がある。いわゆる TV 会議システムの導入である。このソフトを利用し機器の環境を整備するとリアルタイムで意見交換が可能である。

Webcorp(演説集) : <http://www.webcorp.com/>

Welcome to the White House: <http://www.whitehouse.gov/WH/Welcome.html>

Learning Oral English Online: <http://www.lang.uiuc.edu/r-li5/book/>

MOVIEWEB: <http://movieweb.com/movie/links.html>

結論

インターネットを利用した英語教育は今後ますます盛んに各教育機関で実施される教育手段である。以上見てきたように今後の英語教育にもたらす影響は計り知れない物がある。CALL ラボの出現により学習者の個々の能力に即した指導が可能になった。さらに学習者は一方的に教授者側から提供される材料で学習する必要性がなくなり自分の興味ある材料を手に入れ学習することができるようになった。反面教授者は個々の学習者にその都度適切な助言を与える準備と必要性が求められる。インターネットは情報交換がリアルタイムで行うことができ、まさにその瞬間が学習者の一番興味を引く場面である。英語学習のすべての分野の材料がインターネット上に存在しそれらを的確なアドバイスのもとで利用することにより学習者は英語力を付けていくものと考ええる。全世界で情報が瞬時に飛び交う昨今、インターネットをフルに活用することが英語という言語をマスターする基盤になると言っても過言ではない。

参 考 文 献

- (1) 朝尾幸次郎・齋藤典明編 「インターネットと英語教育」大修館書店 1996
- (2) 町田隆也 他 「コンピュータ利用の英語教育」 MediaMix 1991
- (3) 岩村圭南 「インターネットで英語学習」 アルク 1995
- (4) Brad Williams, *The World Wide Web for Teachers*, IDG Books, 1996.
- (5) Michael Sattler, *Internet TV with CU-SeeMe*, Sams.net Publishing, 1995.

(平成9年12月4日受理)